

研究科 /Graduate School	文学研究科
課程 /Program	博士課程 前期課程
専攻・コース等 /Major, Course	人文学専攻 文化動態学専修
入試方式 /Admission Method	一般入学試験
試験科目 /Exam Subject	専門科目
実施年月日（試験日） /Exam Date	2025年9月6日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p><u>解答のポイント</u></p> <p>【問1】文章(A)の冒頭から下線部①までの内容をまとめる。ニュートン科学（ないしヨーロッパの啓蒙運動）と非ヨーロッパ世界との結びつき（帝国、奴隷制、先住民の知識）を押さえる。</p> <p>【問2】文章(A)全体の内容を、最終段落を中心にまとめる。奴隷制時代（もしくは18世紀）の科学史の担い手には、非ヨーロッパ世界（ウィリアムズのような黒人）が含まれていたことを押さえる。</p> <p>【問3】文章(B)の冒頭から下線部③までの内容を参考にする。「ルビコン川を渡る」とは、後戻りのない重要決定的な進展の譬えであること、ヒトは他の動物より生まれつき賢いわけではないが、累積的文化進化によって動物の次元を超える集団脳を発達させたことを押さえる。</p> <p>【問4】文章(B)の冒頭から下線部④を含む段落までの内容をまとめる。現代人の賢さはある少数の優れた人間だけの影響によるのではなく、世代間で継承され累積されてきた文化遺産（文化進化の中で育まれた集団脳）を利用できるからであることを押さえる。</p> <p>【問5】集団脳は社会に「イノベーションを起こす力」を創出することを、文章(B)の主に第二段落を中心にまとめつつ、文章(A)の内容（啓蒙時代の科学の発展は、ヨーロッパの奴隷制や帝国の歴史と非ヨーロッパ世界の先住民の知識の歴史が結合——集団脳、知のネットワークが拡張——して可能となったこと）に言及する。</p> <p>【問6】「ジレンマ」について、下線部⑥以下の説明をまとめる。文章(A)にある、情報提供を行った先住民側の存在に注目し、彼らにどのような利益があったのかを問題視す</p>	

る。知のネットワークへの平等な参加について、ウィリアムズのような富裕層の黒人にはヨーロッパ科学の恩恵を得た者も存在したが、ほとんどの黒人には触れる機会がなかったこと、などに言及してもよい。

【問 7】 文章 (A) (B) のどの点に注目してもよい。注目点が複数あってもよい。注目点の内容の正しい理解が伝わる必要がある。課題文の内容を繰り返す、あるいは一般論としてまとめるのではなく、注目点を自分の研究の素材やテーマ、研究の方法、研究の中で得た知識や経験等と結びつけ、具体的な文脈の中に置き直して論じることが求められる。

出題のねらい

【問 1～4】 二つの課題文の読解力と、下線部について説明するために必要な情報を文章から適宜抽出し、解答欄に合わせて適切に取捨選択できる、情報処理能力や表現力を見る。

【問 5・6】 上記の文章読解力、情報処理能力、表現力に加え、テーマの異なる、一見無関係に見える二つの文章に通底する要素を捉える力を見る。

【問 7】 課題文の内容と、自分の研究の素材・テーマ・方法や、知識・経験等とを適切に関連付け、抽象論・一般論ではなく、具体的でユニークな議論ができる能力を見る。

研究科 /Graduate School	文学研究科
課程 /Program	博士課程 前期課程
専攻・コース等 /Major, Course	人文学専攻 文化動態学専修
入試方式 /Admission Method	一般入学試験、外国人留学生入学試験 (RJ 方式)
試験科目 /Exam Subject	専門科目
実施年月日 (試験日) /Exam Date	2026年 2月 8日
解答又は解答例及び出題意図 Answer or example of answer Intent of the question (試験問題自体を公開しない場合はその理由) (Reasons for not publishing exam questions)	
<p>問1</p> <p>出題意図： 人文科学の学説史的知識をきちんと把握できているか、それを試験問題中の参考テキストと関連付けて論じられるかどうかを確認する。</p> <p>採点基準： 以下のポイントに関する言及がどれだけ盛り込まれているかを確認した上で加点した(すべて網羅している必要はない)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体化を成し遂げ、「真理」を産出しようとする統一的理論、あるいは旧来の世界観(たとえばキリスト教神学など)が、現代において揺らぎ、場合によっては消滅していることが指摘されているかどうか。 ・それらの成立を難しくした近世末期以降の歴史状況が指摘されているかどうか(たとえば、宗教改革、フランス革命、都市化、産業革命など)。 ・「部分」と全体、「細部」と構図といった関連する概念群と比較することによって、「断片」という概念を示差的に定義できているかどうか。 ・各断章に述べられていることを参考にした上で、断片を扱うにあたっての戦略的な方法(たとえば、一般的文脈から切り離された断片間の自由な接合、断片間の対話的・動的な翻訳プロセスの重視など)を複数取り上げ、その利点が論述できているかどうか。 ・そうした方法が抱える問題点が論じられているかどうか(たとえば、断片をつなぐスケーリングの恣意性、特定の断片を選択し、その他を排除することで生まれる「真理」の、部分性、そうした選択=代理=表象の有している偶発性と政治性など)。 ・さらにそれらの欠点を乗り越える方法として、断片に着目する利点が位置づけられているかどうか。 ・断章3だけにとらわれず、四つの断章を横断的に論じられているかどうか(とくに美術や想像力の問題についても触れているかどうか)。 <p>問2</p> <p>出題意図： 文学的テキストと理論的言説を結びつけながら、自由な解釈を産み出しようとする知的技法を身につけているかどうかを確認する。</p> <p>採点基準： 最低限、複数の断片的なトpos(場)を全体としてまとめ上げる「地図」と「キリスト教的な系譜関係(聖人に基づく土地への命名)」の二つの方法が述べられていなければならない(とりわけ前者の場合には、一般的な地図と航海地図における参照枠の違いについても論じられていなければならない)。その他の方法に関しては論述に妥当性をもたせながら、自由に解釈を展開することが求められる。参考までに事例を挙げるならば、以下のような対比的な方法が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行案内書や散歩道によって組織化された「旅行」/偶然に任せた彷徨、フラヌールたちの「散歩」。 ・居住空間を明確に内部と外部に分ける「城壁」/網の目のように入り組んだ路地の「迷宮」。 	

・特定のコードに基づいて細部を総合することによって構築される「風景画」／それ自体が断片に他ならない「写真」による「絵葉書」…など。

それぞれの対比的方法が問1の論述と関連付けられていれば、さらに加点する。

問3

出題意図：

自分が立案した研究計画を特定の理論的な枠組みと関連付けることができるか、言い換えるならば、自らの思惑を対象化した上で研究を進めることができるか、研究遂行能力を確認し面接試験の内容を補足するための問題。

採点基準：

問1から2において論じてきたことが、あらかじめ用意してきた研究計画と無理なく結びつけられているかどうかを評価する。ただし、必ずしも「断片」を重視する視点を積極的に評価する必要はなく、むしろその問題点を重視し批判的に論じるものであってもいっこうに構わない。また、論述の整合性だけではなく、自らの研究計画の独自性を強調するような展開をおこなっている場合も高く評価する。